

平成30年度予算見積調書

課室名：疾病対策課
 担当名：がん対策担当
 内線：3599

(単位：千円)

番号	事業名		会計	款	項	目	説明事業	
B88	小児・AYA世代におけるがん対策推進事業費		一般会計	衛生費	公衆衛生費	予防費	地域がん対策推進費	
事業期間	平成30年度～平成32年度	根拠法令	がん対策基本法、学校教育法施行規則		宣言項目	02 健康・医療・介護の安心確保		
					分野施策	010101 きめ細かな少子化対策の推進		
1 事業概要			5 事業説明					
医療技術やがん治療成績の向上により、長期生存が可能となった小児・AYA世代の若年がん患者に対しライフステージに合わせた総合的な支援を推進する。 (1) 小児がん医療連携体制整備事業 23,774千円 (2) 長期入院を要する高校生への学習環境整備事業 22,967千円 (3) 小児・AYA世代の妊孕性温存支援事業 21,412千円			(1) 事業内容 ア 小児がん医療連携体制整備事業 23,774千円 県内小児がん治療施設にTV会議システムによるネットワークを整備することで診療連携体制の強化を図り、住み慣れた地域で治療を継続できる環境を作る。また、長期生存が可能となった小児がんサバイバーの成人診療科への移行医療を推進する。 イ 長期入院を要する高校生への学習環境整備事業 22,967千円 小児がん等により長期入院を余儀なくされる高校生へ在籍校との連携した学習支援を継続することで、留年や退学を予防し、将来の社会的自立への環境を整備する。 ウ 小児・AYA世代の妊孕性温存支援事業 21,412千円 長期生存が可能となった小児がん・AYA世代の妊孕性を温存し、将来子どもを育む可能性を残すことで、がんとの共生・少子化対策を推進する。 (2) 事業計画 ア 小児がん医療連携体制整備事業 (ア) 小児がん治療施設(9病院)におけるTV会議システムの設置及び診療連携体制の強化 (イ) 地域医療機関との連携会議の開催 4回/年 イ 長期入院を要する高校生への学習環境整備事業 非常勤講師派遣による在籍校との継続した学習支援 5人/年 ウ 小児・AYA世代の妊孕性温存支援事業 (ア) 小児・AYA世代における妊孕性に関する普及・啓発 4回/年 (イ) 妊孕性温存治療に係る費用の一部補助 80人/年 (3) 事業効果 小児慢性特定疾患受給者数(悪性新生物等)のうち県内医療機関受診割合 平成28年度 65% → 平成32年度 80%					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)								
3 地方財政措置の状況 なし								
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.5人=4,750千円								
予算額		財 源 内 訳					一般財源	前年との 対比
決定額	68,153						68,153	68,153
前年額	0						0	